

今後の予定 2011年10月～12月

Yわいフェスティバル2011 YMCA バザー

11月19日(土)



毎年恒例のYわいフェスティバル・YMCA バザーが今年も11月19日(土)に行われます。恒例の韓国食品市、掘り出し市(献品市)、古本市、日本語学校学生による民族料理屋台、

韓国の民族音楽演奏、東京・ソウル往復航空券が当たる大抽選会など盛りだくさんの内容です。

バザーの収益は、日本語学校留学生の奨学金や多文化共生をめざす諸団体の活動への支援、また今年は大東日本震災被災地復興支援のために捧げられます。

現在、掘り出し市や古本市で販売する献品を受け付けています。また当日および前日にお手伝いいただくボランティアも募集しています。ご協力いただける方は、YMCA スタッフまでご連絡ください。

YMCA クリスマスのタベ

12月11日(日)

YMCA 会員の皆さん、各教会の皆さん、地域の皆さん、大人も子どもも、みんなでいっしょに集まり、クリスマスの喜びを分かち合います。

心あたたまるメッセージ、素晴らしい音楽演奏や子どもたちの踊りなど、楽しいプログラムが予定されています。サンタクロースも来てくれるかな?ぜひご家族そろってお出かけください。

●その他の行事

【東京韓国 YMCA】

- 11/7(月) 第218回朝餐祈禱会
- 11/17(木) YMCA/YWCA 合同祈禱会(於東京 YMCA)
- 11/19(土) Yわいフェスティバル2011 YMCA バザー
- 11/28(月) ~ 29(火) YMCA 牧会者一泊協議会
- 12/11(日) YMCA クリスマスのタベ

【関西韓国 YMCA】

- 11/10(木) YMCA/YWCA 合同祈禱会(於大阪 YMCA)
- 11/27(日) 南北コリアと日本の友だち展・大阪展(於大阪国際交流センター)
- 12/10(土) 第40回生野区民クリスマス(於北巽小学校)
- 12/10(土) 会員クリスマス祝賀会

KAKEHASHI かけはし 2011 Oct. vol.5

発行人: 金秀男 発行: 在日本韓国YMCAアジア青少年センター
〒101-0064 東京都千代田区猿樂町 2-5-5
TEL 03-3233-0611 FAX 03-3233-0633
http://www.ymcajapan.org/ayc/jp/
ayc@ymcajapan.org



新スタッフ紹介

● 裴秉胄 (ペエ・ビョンジュ) さん



「早くスーツの似合う体型になりたい」と一言自己紹介してくれた裴秉胄さん(31歳)。音大(音楽科)を卒業し、ピアノなどの楽器の演奏も上手な裴さんは、以前は学童保育のスタッフとして働いていました。在日本韓国YMCAでは、当面、開店準備を進めている2Fレストランの全般的な管理スタッフとして活躍する予定です。

YMCAで働き始めて一ヶ月あまり、「個性豊かな面々に囲まれ、日々楽しく仕事をしています」と感想を述べてくれました。

● 劉慶鍾 (ユ・ギョンジョン) さん



「社会から必要とされる人になれることを心がけています」と自己紹介してくれた劉慶鍾さん(47歳)。ソウル出身の金弘明(キム・ホンミョン)さんと入れ替わって、来年3月までの予定でソウルYMCAから研修のため私たちのYMCAに来ています。

ソウルYでは社会体育事業に携わり、様々なスポーツプログラムの企画、大会運営などを担当してきました。研修期間中は在日本韓国Yの事業全般に対して理解を深め、各部門の業務を幅広く支援します。「必要なときには、いつでもどなたでも呼んでください。すぐに駆けつけて力になれるよう、がんばります」と抱負を語ってくれました。

YMCA 東京日本語学校 学生募集中!

◎日本語レギュラークラス◎ 月～金 午前9時～午後1時

4月期留学ビザの申込み締切は11月15日です。すでに滞在中の方、短期滞在で来日予定の方は、いつからでも勉強をスタートできます!ぜひ見学にお出かけください。

◎短期集中コース「冬の東京体験」◎ 2012年1月29日～2月11日(13泊14日)

参加費:10万円(授業料、宿泊費、朝食代含む)
海外在住のご友人、お知り合いにぜひご紹介ください。

＜編集後記＞

衣替えの時期。Yもスタッフの入れ替えがあったりして雰囲気が一変しました。これを機に心も新たに!(朴)
久しぶりに体重計にのりました。そんなはずはない...食欲の秋ならぬダイエットの秋です。(才)
読書の秋、ふだんなかなか読めない長編小説や外国語の原書にチャレンジしてみたいです。(た)
2011年も第四コーナー。お肌と健康の曲がり角。(ペ)
今回は一回お休み...^^;(AT)

『かけはし』次号は2012年1月発行予定です。



ツイッター @zainichiyymca
より良い紙面づくりのために、ご意見・ご感想等お寄せください。

YMCA 在日本韓国YMCA
アジア青少年センター
Korean YMCA in Japan
Asia Youth Center

かけはし

盛岡YMCA宮古ボランティアセンターを訪れて

金弘明(キム・ホンミョン / YMCAスタッフ)

震災以降、マスコミやインターネット、そしてYMCAを通して入る情報が被害の甚大さに胸が痛み、被災された方のお役に少しでも立ちたいと思っていました。またYMCAや私の所属する教会の現地での働きを聞き、そこに加わりどのような働きがなされているかを実際に見たいという気持ちもありました。しかし、震災以降、在日本韓国YMCAも運営的に大変厳しい状況を迎えることになり、まとまった日にちをとるには夏休みまで待つこととなりました。前半は岩手県の宮古市にある盛岡YMCA宮古ボランティアセンターで活動した後、レンタカーで三陸海岸を南下して移動し、後半は在日大韓基督教会の東松島の支援チームに加わりました。

宮古には東京駅発の夜行バスで休みの1日目の朝に到着。駅から日本基督教団宮古教会を目指しました。宮古教会も大変な被害を受けましたが、ボランティアセンターに活動場所として教会堂をお貸しいただいています。到着した時がまさにボランティアが発発する時間ですぐに同行しました。向かったのは町内会長さんの家で、他の家を先にしているうちに自身のところが最後となったそうです。町並みにはボツボ

ツンと空き地があり、近くに行くとかつて家だったことが分ります。作業するお宅は1階の天井まで津波が押し寄せました。そこを復帰させて元の暮らしに戻るのが目的で、作業は水とヘドロに浸かった1階部分の内壁・床材とヘドロを撤去し、廃材を処分場に捨てに行き、そして屋内の高圧洗浄でした。

(2面に続く)



瓦礫の撤去作業にあたる現地スタッフ

募金にご協力ください
窓口を持参または郵便振替で
00190-4-539049 在日本韓国YMCA

「東日本大震災 YMCA 救援・復興募金」

未曾有の困難に祈りをもって
立ち向かいましょう。

聖書に聴く 第5回

朴太元 牧師(パク・テウォン / 在日大韓基督教会豊橋教会)

偉大なる質的変化の奇跡 (ヨハネ福音書6章1～15節)

ここ数年、「変化」「変革」という言葉をよく耳にする。最近のベストセラー本のうち、6割が変化を主題にしたものだし、政治の世界においてもこの言葉を聞かない日はない。自分自身や自分を取り巻く環境や状況など、私たちは変化を求めることが多くあるが、聖書の中では、どのような変化や変革が描かれているのだろうか。
ヨハネ福音書6章1～15節は、「5つのパンと2匹の魚の奇跡」の話である。この物語は、イエスの奇跡物語の中でも一番と言っていいほど有名な出来事であり、好まれている物語である。一般的にこの奇跡は、少しのものが多くものに変化する、「量的変化」を代表する奇跡としてとらえられている。しかし本当にこの物語は量的変化だけを示す奇跡の物語なのだろうか。

大胆な推測をしてみたい。ヨハネによると、弟子たちが食事のため心配している中で、この少年だけが食物を持っていた。この少年の持つパンと魚とは、少年の親がこの子に持たせたお

弁当ではないかと考えられる。その自分のお弁当を少年は弟子に差し出し、イエスはそれをういられたのである。つまり、最も小さな者の、小さな献げものを、イエスはみ言葉によって大いなる奇跡の形を示されたのである。また、少年が差し出した食物をイエスが用いる姿を見て、同じようにお弁当を準備していた者たちが、自分のための食物を、後に差し出したり、分かち合ったりする者が、その場に数多く現れたのではないだろうか。

このような解釈だと、ここでは何の奇跡も成されていないと思うかもしれない。だが私はここにこそこの物語の偉大な奇跡の意味があると考えている。つまり、小さな少年の行動と、イエスのみ言葉によって、自分の食物を、隣の人と共に分かち合おうとする、心の変化がもたらされたのである。一瞬にして起こった何千何万人の心の変化は、外見や量ではなく、中身が変わる「質的変化」の奇跡ではないだろうか。

少年の差し出したわずかな食物が5000人以上の人々のお腹を満たすこの出来事は、小さな者の小さな献げものが、イエスの言葉によって大きな変化をもたらすことを示している。

(1面から続く)



撤去というのはある意味家の一部を壊すことであり、ハンマーで壁を叩きパールを使って崩していく作業は心が痛みました。私は軽トラックで15分ほど離れた港のガレキの一時的な置き場に計10

回ほど往復し、瓦礫の山と匂いに言葉を失いました。車両も大量に並べて置いてあり、その量に圧倒され、この一時的な置き場からどこに運ばれるのかと思うだけで胸が塞がれる思いでした。車で宮古市の周囲も見て回り、特に田老地区のX状になった2重の堤防のかなりの部分が損壊し、また残った堤防を乗り越えて住居地区に入った津波被害の大きさに何度も言葉を失いました。

仮設住宅の被災者を訪問する機会も得たのですが、短い期間で自分が何が出来るかと自問しつつ、関心を持ち、心配し続けていることを伝えられるだけでも意味があるのかと思うようになりました。また少しでも現地でお金を使う機会を窺っていましたが、ポ



ランティアセンター内の生活は消費活動とは無縁で、夜飲みに行く機会を作り、お土産を買うことも心がけました。

宮古から45号線を南下。山田湾、船越湾、大槌湾、両石湾、釜石湾、大船渡市、広田湾、陸前高田、気仙沼市…被害の程度は言葉になりません。見る前と見た後では自分自身が変わったように思います。活動場所の近隣や移動時に見た光景は、夏草が生えた広場と思ったら家屋の基礎が残っていたり、瓦礫がうず高く積もって山となっている姿、大きな街では半壊した建造物がそのままになっていました。ただ息を呑むばかりで、奉仕ができるのはそこに住む人々が再生への道を歩もうとしているからなのだと強く思いました。現地のコーディネーターが街の人たちと信頼関係を作ってそのニーズを聞き取り、集まったボランティアを適切に配分する、その働きとそれを長期的に支える体制の持続、またボランティアを集め現地へ送り出すための仕組み・組織の働きの重要性を強く感じました。関心を長く持ち続けることの重要さとその難しさも同時に感じました。YMCA やワイズの仲間と、じっくり取り組んでいきたいと思えます。



考える「かけはし」

第5回 会員である限り、その理念を伝える、広める使命があります。「かけはし」の復刊にあたり、YMCAそして在日本韓国YMCAについて、もう一度、知り、考えるきっかけになればと思います。第5回はYMCA日本語学校について考えます。

YMCA東京日本語学校について



現在YMCAには日本全国に12のYMCAが設立した17校の日本語学校があります。その中の1つが在日本韓国YMCAの日本語学校である、YMCA東京日本語学校です。在日本韓国YMCAは1906年に創設された当初から、留学生のための日本語教育や生活相談の場として用いられてきました。そして、その伝統と実績をもとに、1990年にYMCAアジア語学院日本語学校が設立されました。2008年には校名がYMCA東京日本語学校と改称され、現在もアジアを中心とする海外出身の学生たちが日本語を学んでいます。

YMCAのキリスト教精神に則り、一人ひとりの個性やニーズを尊重した指導が行われており、大学および大学院進学希望者には日本留学試験、日本語能力試験での高得点獲得を目指した専門のカリキュラムが用意されています。また進学以外の目的で日本語を学ぶ定住者や短期滞在者のための多様なコースも設置されています。

加えて、在日本韓国YMCAアジア青少年センターの名に示される通り、YMCA東京日本語学校ではその目的を、単に語学習得のみならず、言語という媒体を通してアジアを中心とした国際理解教育と交流を図ることとしている点が特色といえます。

積極的に市民ボランティアや地域の人々とふれあい、日本語を使って交流を深める機会が用意され、年に一回の在日本韓国YMCA主催のバザー&フェスティバルでは、学生たちがそれぞれ自国の食事を振る舞う屋台を出店するなど、文化交流の場ともなっています。世界のさまざまな地域から集まった学生たちは、語学を学びながら、横のつながりにおいて、「多文化共生力」を養っているのです。

これは世界的なネットワークと国際交流の実績を持つYMCAの活動の強みといえます。

本来的にいえば言葉を学ぶとは単に言語能力を養うという意味にとどまりません。言語を学ぶということは、その文化を学ぶ、また、異文化との遭遇に他なりません。異文化の言語であることを理解した上で学ぶことで、よりいっそう深い理解が得られ、他言語を話すという力が身に付きます。

その意味で、そもそも韓国と日本のダブルとしての使命を帯びた在日本韓国YMCAはまさしく異文化交流、多文化共生の場であり、本当の意味での異文化における言語習得のために一番ふさわしい場であるといえます。

そこで学んだ学生たちが、これからのアジアと日本の、そして世界とのかけはしとなって活躍してくれることでしょう。



YMCA日本語学校のキャラクター「さくら(右)」と「きく(左)」

2011年夏のプログラム 2011 Summer Programs

建国大学で学ぶ韓国語 2011 夏 韓国語講座 夏の特別プログラム

2011年7月31日から8月6日、六泊七日の日程で、韓国・ソウルにある建国大学での語学プログラムが行われました。



いつもは日本で韓国語を学んでいる方々を対象に、一週間という短い期間ではありますが、現地の大学で韓国語だけの授業を受けてみることを目的としたプログラムです。現地集合、現地解散、食事は原則として個人で摂り、宿泊は大学の寄宿舎を利用するという、韓国語のことだけを考えるためのプログラムに応募なさったのは15名の方。すべてYMCA韓国語講座の会員の皆様です。



建国大学言語教育院での授業は一日に50分×四コマ、月曜日から金曜日の合計二十時間。授業中も、休み時間も、先生は日本語を一切使わずに、すべて韓国語で話します。日本で学んでいるだけではわかりにくい部分や、わかっても練習が足りない部分などを補って、今後の勉強の大きな励みになった一週間でした。午後は、各自お気に入りのソウルを探索したり、休憩を取るなど、自由行動でしたが、宿題があればよかったという意見もありました。

ガイドブックにはあまり載らない建国大学近辺も、便利で活気の溢れる素敵な街でした。次回にはもっと韓国語に触れられるよう、より一層充実した現地プログラムを目指します。



パレスチナで初のワイズメンズクラブが国際協会加盟(チャーター)

在日本韓国YMCAが交流を進めている東エルサレムYMCAを支えるサポートクラブとして、パレスチナで初めてのワイズメンズクラブ(The East Jerusalem Y's Men & Women's Club)が設立され、10月17日にワイズメンズクラブ国際協会への加盟認証が披露(チャーター・ナイトが開催)されることになりました。

この歴史的なチャーター・ナイトにワイズメンズクラブ国際協会国際書記長として出席する西村隆夫さん(在日本韓国YMCA前理事、ジュネーブ在住)にお話をうかがいました。



西村隆夫さん (在日本韓国YMCA前理事)

2006年4月、在日本韓国YMCA創立100周年記念式に東エルサレムYMCAのアンドレ総主事が来日した際、東京センテニアルYサービスクラブのメンバーと交流の場が持たれて以来、東エルサレムでのワイズ設立に向けての計画が時間をかけながら進められてきました。2010年の香港での世界YMCA大会で東エルサレムYの世界同盟正式加盟が認められた際にも、Yスタッフと共にワイズ候補者がその場で紹介されました。



Andre Batarsehさん (東エルサレムY総主事)

2010年のオリーブ収穫プログラムにワイズ・スウェーデン区の現理事Barbro Thorén(元Y主事)が参加し、ワイズ設立をアンドレ総主事に再度呼びかけて以降、本格的な準備が進み、今年の夏に国際協会加盟の申請が行われ、このたびの加盟認証に至りました。

クラブの正式名はThe East Jerusalem Y's Men & Women's Clubで、会長は東エルサレムY総主事であるアンドレさん(Andre Batarseh)自らが務め、Dr. Muna Mushahwarが書記となります。メンバーは30数名で、そのうち10名ほどはムスリムだそうです。チャーター・ナイトにはスウェーデン、デンマークなど海外からの参加者も予定されており、Finn Perderson国際会長と西村隆夫国際書記長も出席します。

在日本韓国Yと東京センテニアルYサービスクラブが進めている東エルサレムYとの交流やプログラム支援が、今回のワイズ設立を機にいっそう進展し、現地での平和構築にさらに寄与することが期待されます。